

令和元年第6回東大和市議会総務委員会記録

令和元年8月14日（水曜日）

出席委員（8名）

委員長	荒幡伸一君	副委員長	根岸聡彦君
委員	大后治雄君	委員	森田真一君
委員	蜂須賀千雅君	委員	和地仁美君
委員	東口正美君	委員	中野志乃夫君

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（3名）

事務局長	鈴木尚君	議事係長	尾崎潔君
主任	櫻井直子君		

出席説明員（なし）

会議に付した案件

（1）所管事務調査

市の魅力を高めるための施策について

午前 9時57分 開議

○委員長（荒幡伸一君） ただいまから令和元年第6回東大和市議会総務委員会を開会いたします。

○委員長（荒幡伸一君） 所管事務調査、市の魅力を高めるための施策について、本件を議題に供します。

前回の委員会において所管事務調査の進め方について御協議いただき、他市と比較して調査を行うに当たり、調査の細目を決めて行ったほうがよいとの御意見をいただきましたので、正副委員長において所管事務調査の細目についての案を作成いたしました。事前に送付させていただいておりますが、改めて私のほうから説明をさせていただきます。

では、お手元に資料があるかと思えます。

この所管事務調査、市の魅力を高めるための施策、広範囲になるということでございます。市内外への市の魅力の情報発信のための施策であるシティプロモーションに注目し、焦点を置いて調査を行うこととさせていただきます。

まず、大きく3つに項目を分けさせていただきました。

まず、1つ目がシティプロモーションの体制についてということでございます。2つ目がシティプロモーションの取り組みについて、3つ目が都市ブランドの構築、シビックプライドの醸成につながる施策、事業の実施についてということで大きく3つつくらせていただきました。

1つ目の細かい部分といたしまして、担当部署の人員体制ですとか事業目的、庁内での他部署との連携ということで、まず担当部署、そして業務内容、人員配置、民間経験者の有無、外部委託の状況、部署の設置年月、設置の背景や目的、また年度別当初予算額、シティプロモーションの担当部署を設置した効果、そしてシティプロモーション業務実施上の課題、そして市長や各課との連携の方法及び状況とさせていただきます。

2つ目が、マーケティング戦略など、また市民や団体等との協働、連携、そしてスタッフプライドの醸成などということで、マーケティング戦略や指針など、そして年間計画、これまでの具体的な取り組み内容、メディアへの情報発信、そして庁内向けの広報活動、取り組みの成果や課題ということで挙げさせていただきます。

そして3つ目ですけれども、この3つ目は、皆様に御意見をいただきたいんですけども、この2つ目の取り組みに入れてもいいのかなというところはあるんですけども、その辺、皆様の御意見を伺えればと思います。

3つ目が都市ブランドの醸成、シビックプライドの醸成につながる施策、事業の実施についてということで、ブランドロゴ策定の背景や経緯、そしてブランドロゴ浸透のプロセス、シビックプライド醸成に関する施策・事業、シビックプライド醸成の効果・課題とさせていただきます。

前回、皆様から御意見をいただいて、まずはこのブランドプロモーション指針、またアクションプランに関しては、もう皆さん御存じだということで、この細目に関して市のほうの御説明をまずはいただくというところから開始ができればというふうに考えておりますので、よろしく願いをいたします。

正副委員長案についての説明は以上となります。

それでは、ただいまの説明に対して、またそのほかにも御意見等ございましたら御発言をお願いいたします。いかがでございましょうか。

先ほど申し上げました2番と3番に関して、2番と3番を分ける必要がないのかなとか、分けたほうがいいのか、ちょっと悩んでるところではあるんですけども、その辺についてもいかがでしょうか。

特にございませんでしょうか。

○委員（東口正美君） ありがとうございます。

一つこの、もうちょっと明確にしたほうがいいのかなんて思っているところは、成果と課題っていうところをはかる、もう少し具体的な物差しが示した中で取り組めたらいいのかなどは思っておりまして、やっぱりそれは人口減少をどう食い止めるかっていうようなことが一番のものであるとすれば、やはりそのうちの市のこのシティプロモーション——ブランドプロモーションに取り組んだ成果指標もそうですし、他市に行って調査をするときにも、その地域の人口の推移がどのようになっているのかっていうことをざっくりとではなく、一つの成果指標としてきちんと挙げておいたほうがいいのかなんていうことは思いました。

とりあえず以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

今、人口の推移ですとか、その辺も入れたほうがいいんじゃないかというふうな御意見がございましたけども、ほかにもございますでしょうか。

○委員（和地仁美君） まず1点は、非常に細かいことを申し上げて恐縮なんですけど、この1番のシティプロモーションの体制について、一番上のポッチは担当部署になっていて、下から3つ目は担当部門になっているので、これは部署として調査をするっていうことで統一でいいのかどうかということが1点。

それから、今東口委員から指標の話も出ましたけれども、具体的な指標は何なのかっていうことをまず聞くところから調査って始まると思って、その一つ、市のほうで設定してるのが転出転入の人口だとか、どういう年齢層が、ターゲットとしている年齢層がどれぐらいの割合入ってきた、出ていったっていうのは一つの指標として市のほうで挙げてきた場合、それについてどういう結果かかっていうのを経年でこちらで確認をするっていうことだと思うんですね。

もっと言っちゃいますと、このまち・ひと・しごと創生の中の目標3の中で、東大和市のサポーターをつくり育てる、地域ブランドを創出する、東大和市の魅力を伝える、それから東大和市への観光客をふやすっていう施策を3つ挙げていて、そういうものの後押しするのが東大和市でいうとブランドプロモーションという言い方をしていますけれども、シティプロモーションで、それを方針を決めてるのが指針としてもう作成されていて、アクションプランとしてこういうアクションするっていうことを書かれていますので、これはもう一連の流れの中での動きだと思いますので、先ほど東口委員が言った人口を検証するっていうのも一つの物差しですけども、こちらのまち・ひと・しごとの中で3つ物差しを、具体的な人数とかパーセンテージとか、いいねの数とか決めてますから、そこら辺で市が設定している物差しが的確なのか、適当なのかっていうことを検証して、その適当であるという前提でその実績を確認して、他市でもっといい物差しを持っているのであれば、うちの市もその物差しで効果を検証したらどうかっていうような調査の進め方でいいんじゃないかなと思いますので、おっしゃっている転入転出の人口はもちろん確認する一つの目標として必要だと思いますが、それにこだわらず、市が持っている物差しを全て出してもらって、その中でいろいろと調査をするっていうほうがいいんじゃないかなというふうに思っております。

この細目を正副委員長でつくっていただいたっていうことは、お疲れさまでしたっていうか、お手数をかけてもらうんですけども、先ほど委員長のほうからも御発言あったように、アクションプラン、指針というものがある前提でっていう中でこの細目を挙げられたっていうことは、何となくイメージできるんですけども、特に正副の中でこの細目のほうは資料がある前提で、どういうところを重点してこの細目を調べたらいい

かなってというお話があったのかなど、もうちょっとお聞かせいただけたらなと思ったんですけども。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

まず、1点目の細目で挙げさせていただきました1番のシティプロモーションの体制についての中の1つ目のポチの担当部署、下から3番目のシティプロモーション担当部門になってるところは、済みません、こちら部署で統一をさせていただければというふうに思います。

また、市で決めている物差しは、先ほど御発言いただきましたけども、おっしゃるとおりだと思いますので、そこは今後検討して、こちらに入れさせていただければというふうに思っております。

また、最後のお話ですけども、指針やアクションプランを見ながら作成をさせていただいたものではありませんけども、まずをもって私、東大和市に生まれて育った人間といたしまして、市の魅力というのはたくさんあるわけなんですけども、そのあるものがまず生かされていない、アピールできていないという部分が非常にもどかしいというところから考えさせていただいたところがございます。

これを決めるに当たっての……細目を出し合いながら、私のほうで作成をさせていただいて、副委員長のほうに確認をいただいて皆様にファクスで送らせていただいたというのがこちらでございます。済みません。

○委員（和地仁美君） 特にこれが問題だということではなくて、前回の委員会でもこのシティプロモーションにフォーカスして調査、研究をしようっていった中で、例えば指針であったりアクションプランにも書かれていることを、再度この細目に挙げたという部分について、もう一度確認をしたほうがいいよねっていう中でどういう、要するに、これを設定した意味をちゃんと理解しないで否定もできないし、追加もできないなって思ったんですよ。

例えば担当部署なんていうのは、もう皆さんもわかっていることなんだけど、それをもう一度明らかにして、例えば部署名をこういうふうに設定して、例えば他市ではもっと違った、いわゆるどういうミッションを持つてる部署なのかわかりやすい部署名をつくる自治体もあると。でも、うちはそういう名前じゃなくて、もうちょっとぼやんとしたというか、いろんなことができるようにしたのがこういう意味ですよって、この部署名をね、部署名からミッションが見えるとか役割が見えるっていうようなことを確認したいねっていうような御議論が正副の中であつてこの細目であれば、そうだね、担当部署をもう一度確認しようねっていう話になるんですけども、ただどこ部署ですってのを確認するだけであれば、もうそれは資料というか、公認の中、皆さんがわかっている中でこの細目ではなくて、もうちょっと深掘りした内容になるんじゃないかなっていうふうに私はこれをいただいたときに思って見てたんですね。

なので、正副の中でここを一言でね、項目だけでは語りつくせないこういうことを調べたいからこれを載せたんですってというような、全部の点、この細目について御説明いただかなくてもいいんですけども、特にこれを載せたのはこういう意図があるんですとかっていう御説明があれば、なるほどねっていう部分もちょっと知りたいなって思ったということです。

○委員長（荒幡伸一君） 済みません。

今おっしゃったとおり、担当部署、調べればわかるじゃないかというようなことですけども、おっしゃるとおりなんですけども、自治体によっては部署が全く総務関係ではなくて別の団体に任せているようなところがあったりとか、課でいえば環境課が担当しているような自治体があったりで、その自治体間によっていろんな部署、団体というのを設けてやっているのを調べていく中で確認をさせていただいたので、ちょっと簡単に担当部署っていうふうには書かせていただいたんですけども、その辺も本来であればおっしゃるとおり、深掘り

して、もうちょっと違う形で書いたほうがわかりやすかったのかなとは今言われて思いましたけども。

また、業務内容に関してもそれぞれ自治体によって違ったりですとか、人員配置も全然、当市は1人でやっていますけども、ちゃんと部署として持つてるところは3人、4人ということで、いろいろと細かく分けてやってみるような自治体もあったりで、そういった違い、また市としての当初予算、予算がどれだけもらってるのかということによってもその事業の内容が全然変わってくるのかなというようなことから、ちょっと事細かいに入れさせていただいたというのが、済みません、こちらの正副で話し合った内容になっております。

説明になってるかどうかわかりませんが、済みません。

○委員（根岸聡彦君） ちょっと補足をさせていただきますけれども、一番上の担当部署というのは、下から3つ目にある担当部門を設置した効果というところに包含されてもいいのかなというところはあるんですが、やはり他市との比較をしていこうという中で専門的な部署があるのかなのか、あるいは当市みたいに1人の担当者がやっていて、その人に任せ切りにしているのか。あるいは担当者がやっではいるけれども、全庁的に横断したタスクフォースみたいなものを持っていて、その人が声をかけることによって他部門からいろんな人たちが集まってきて会議ができるのかどうかと、そういった体制がどうなっているのかということも、比較の対象にしてはいいんじゃないかなというところでこういうふうな形になったというふうに私は理解しています。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

○委員（大后治雄君） 感想になりますけども、これ細目拝見させていただきました。ありがとうございます。

拝見させていただいたとき、いろいろね、かなり細かくなってるなという気はしまして、それで科学的なアプローチをとるのかなというようなところをちょっと見たんですね。先ほどの取り組みの成果、課題については、定量的な物差しを基準として提示するというようなことは私も非常に賛成です。

自治体間の比較をするっていうためには、やはりそういったような定量的なものが徹底的に必要なってきますので、その上で自治体間の比較で、例えば担当部署が名前、それからどういうところに配置をされているか。つまり、市長直属であるとか、それから副市長なのか、それとも全く外部のところにつくられているのかっていうところにもまだいろいろと変化があるかと思うんですね。

あと、先ほどの取り組みの成果の定量的な比較ですけども、例えば人口の増減云々というのがありますが、そのほかにもね、その人口の増減に至る手前には恐らく税金の、税収の多い少ないっていうか、入ってくる税収のその多寡もいろいろ変わってきてるんだらうと思うんですね。だんだんシティプロモーションが成功するに従って、そういった税収がちょっとずつふえてる部分があるんじゃないのかなという、それはまだ私の何ら反証もして……反証っていうか、考えも入っていないような部分なんですけども、そういったような仮説もとれるのかな。

やはりこれをまとめることがとても一つの論文みたいな形になるとすれば、そういった仮説を一つ一つくっていくことによって、そういった定量的な比較を当てはめることによって、あ、こういうことだったんだなということがわかってくるっていうことにすれば、これまでにない画期的な報告ができるんじゃないのかなというふうにも思いました。

ということで、できればそういったような科学的なアプローチをどんどんどんどん突き詰めていったら非常におもしろいものになるんじゃないかなというふうに思いました。

感想です。ありがとうございます。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

ぜひ参考にさせていただいて、取りまとめていきたいというふうに思います。

ほかにございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 私もわかりが悪いのかなって自分で思いながら、この間、この議題に参加させていただいてるんですけども、正直申し上げて、このシティプロモーション含めたまちの魅力を高めるための施策っていうのが、その課題だけが、特に国からということだと思いますけど、示されてて、一応人口がどんどん減ったら、将来大変になるよってことだけは言われるわけですけども、その課題だけが示されながら、何でそれが例えば地域ブランドを創出するようなシティプロモーションなのっていうのが、もう一つ見えてこないんですよ。つまり別の課題であれば割とはっきりしてるんです。子供が保育園に入れないって困ってるっていう実態が現に市民の中でも明確にあって、じゃ、保育園をいっぱいつくんなきゃだとか、学童保育でもそうですけど、そうすると子供たちも安心して育てられる、親御さんも安心して働きに行けるとか、そんなふうになりやすい課題と違って、これ何か非常にもやもやするんですよ。

私ね、これ見ててね、ふと思い出したことがあるのが、もう私、若いときに就職してた、もうかれこれ35年も昔の話だから古い話だと思っていただいても結構なんですけど、ちょうどそのころにC Iブームっていうのがあったんです。覚えてらっしゃる方もおられると思いますけど。会社の企業名を変えたり、キャッチフレーズを新しくつくってみたり、ロゴみたいなのを刷新してみたりだとか、いろいろあれこれあれこれやるんですけども、結局、ある程度たって、あのブームが過ぎると、あれって何だったんだろうっていうふうな総括になってたんですね。

これ企業活動のアナロジーとして見るとね、この地域ブランドをつくんなきゃとか何かいろいろまち・ひと・しごと創生の一部分だと思うんですけども、何かつかみどころがなく、何やったらいいかわかんない。どういう問題意識持ったらいいかわかんないというのが、私、今の時点での率直な感想なんです。

一個一個はやったらね、今当座やってることをもっと効果的にできるんじゃないかとかいろいろ期待するところはあるんですけども、住民との関係で何が問題なのっていうことがもう一つ定まらない、ちょっと特殊な案件だと思ってるんです。

だから、逆に言うと、多分いろいろ手を打ってるものを見ながら問題の核はどこにあったんだろうということを考えざるを得ないのかなって思ってた、きちんとした意見が言えないままにいるんで、ちょっとそのことをね、一言言っただけでもいいかなと思って発言しました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

○委員（和地仁美君） 今森田委員がおっしゃったとおり、国からおりてきた一つの人口減少に対する各自治体が自立できるすべを持ちなさいねっていうことだと思うんですけども、極論で言うと、シティプロモーションしないで豊かに身の丈に合った自治体をつくるっていう取り組みをすることも選択肢としてはあるわけですよ。世界の中にもそういうことで発展して話題になって、プロモーションしなくても勝手に人が集まってくるとか、もしくは人がふえなくても充実した生活が送れるっていうまちをつくっているところもあるわけですね。

うちの市としては、こういうレッドオーシャンにですね、ブルーオーシャンではなく皆さんの競争の中で同じ方向性で競っていきましょうという方向性を今現在をとっているわけなので、その中でよりよくそれをどうしたらいいのかっていうことを現状を確認をして、うまくいっている市と比較してどういう、先ほど大后委員

の言ったように、今現状どうで、考察をつけてこういう方法がいいんじゃないかっていう一つの調査結果になると思うんですね。

だから、極論で言ったら、シティプロモーションをしなくてもいいんじゃないかっていう仮説のもとで、何でするんだっていうところから始めてもいいんですけども、それをやると、今やっている所管事務調査としては、そこから始まっちゃうと今あるものについて否定するっていうところからになっちゃうので、今やっていることについてまずは調査をしましょうっていう私は理解でいるんですね。

なので、そういったところでもやもやも解消していただいて、競う人がいっぱいいる中でうちは今どのあたりだろうかとということ調べたらいいんじゃないかっていうふうに思います。

○委員（大后治雄君） シティプロモーションで、恐らくね、今回言われてるシティプロモーションは、まず自分自身を見詰め直せという部分もあるかと思うんですよ。自分たちの中の、自分の自治体の中のいいものって何なのか、それから欠点で何なのかっていうのを探り出して、自分たちのアイデンティティーをもう一回見詰め直してくださいよっていう意味合いもあったと思うんですね。

例えば30年ほど前のいわゆるC Iブーム——コーポレート・アイデンティティ部分のころって、いわゆるブランディングとかそういったようないわゆる研究が確立されていないような時代であったとも思うんです。

それからやっぱり数十年たって、ブランディングとかそういったようなことも学術的な部分で恐らく確立されてきてる部分であろうかと、私の大学時代の友人もソニーでブランディングをやった人間がおりますが、そういったような人たちがどンドンどンドン、いわゆる会長直属でやってたりとかしたんですよ。そういったような人たちがどンドンどンドン出てきますから、恐らくそういったようなところが当時のC Iとの今いわゆるシティプロモーションとの違いもあるんだろうなというところもあります。

先ほど最初に申し上げたように、今回のシティプロモーションは、恐らく内向きの理論なんじゃないかなと思うんです、私自身は。でも、その内向きの理論からそこをもうちょっとはちやけたというかね、その殻を破って、この総務委員会ではいろんな自治体を比較して外向きにいろんなものを比較して、本当に必要なもの、本当にこれは要るのか要らないのかっていうところまで突き詰めていけるんじゃないのかなというふうに私は思ったんです。だから、これやる価値があるのかなというふうに思うんですね。

これはあくまで私の頭の中だけの考えなので、皆さん同意してくださいとは言いませんけども、そういったようなんじゃないかなというふうに私は感想では思っています。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

○委員（根岸聡彦君） 森田委員のほうから言われたもやもや感ですか、すごくよくわかります。正直言いますと、私ももやもや感でいっぱいなんです。

所管事務調査の大きな目的、これ市の魅力を高めるための施策について調査をするということですから、最終目的は市の魅力を高めてくださいということになるわけです。じゃ、魅力って何なのということになると、それは大后委員がおっしゃってくれたように、じゃ、自分たちのいいところ、悪いところ、そういうものを洗い出してほかの自治体と比較をしてどうなんだというところを調べていきましょうということなので、もやもや感のある中でそのもやもや感をちょっとずつ解消していけたらいいなと思います。

その過程の中で、ひょっとしたら和地委員が言われたような、じゃ、シティプロモーションで本当に必要なものというようなところにぶち当たるかもしれない。そうなったら、そのときはそのときで、またそこで議論していけば、議論なりまた調査を試みればいいというふうに私は考えています。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

ほかによろしいですか。

じゃ、今皆様からいただきました御意見をもう一度まとめさせていただいて、また皆様に諮っていただければというふう思っております。

ただ、期間がもうございませんので、9月の委員会前につくったものを皆様に見ていただいて、それを諮っていただいて、9月の委員会でそれをもとに担当部署のほうから御説明をいただくということによろしいでしょうか。

○委員（和地仁美君） 所管事務調査のときは指針とアクションプランは皆さん、手元に持ってくるように、委員長のほうからもう一度確認をしていただいたほうがいいと思います。

○委員長（荒幡伸一君） 今和地委員のほうから話がありましたブランドプロモーション指針とアクションプラン、できれば、私も、済みません、きょうちょっと持ってきてませんが、お持ちいただいて、確認ができればというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

○委員（大后治雄君） 最後、申しわけない。

基本的に今ここに提示されてる内容で、私いいと思うんです。だから、改めてこれでまた作り直してどうこうというのは私は必要ないかなと思うんですよ。ここでもう始めちゃったほうがいいのかという気がするの、細かいところ、最初言ったね、部門を部署に直したりとかっていうぐらいで、私はもうこれ中身的には、私はこのまま進めてもいいのかなというふうに思いますので、二度手間は要らないと思います。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

今大后委員ほうから、直す必要ないんじゃないかというようなお話をいただきましたけども、皆様、いかがでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○委員長（荒幡伸一君） よろしいですか。

では、これに沿って9月の委員会は進めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。あと、何か御意見はございますでしょうか。

[発言する者なし]

○委員長（荒幡伸一君） よろしいですか。

それでは、所管事務調査につきましては、ただいま御協議いただきました細目に沿って調査を進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

○委員長（荒幡伸一君） これをもって、令和元年第6回東大和市議会総務委員会を散会いたします。

午前10時29分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 荒 幡 伸 一